

News! the 世界遺産

第5回 世界遺産登録推進に向けての中学生作文コンクール

平成19年、「中学生も世界遺産登録に参加しよう」という意気込みで始まった作文コンクールは5回を重ね、2000名以上の中学生が応募するというめざましい成果を挙げています。その背景には、各中学校で鎌倉の歴史についての授業に力を入れていることや、各個人がインターネット等により情報収集し勉強していることがあるようです。国内で（恐らく海外でも）初めての試みは、世界遺産都市・鎌倉に対す

る市内の中学生の皆さんの理解を深め、鎌倉の文化を後世にしっかりと継承していく方向を示すものとなっています。

平成23年度の表彰式は、本年1月14日に市議会本会議場で行われました。以下に、最優秀賞の作文を掲載します。



「武家の古都・鎌倉」の価値は何か？

横浜国立大学附属鎌倉中学校 3年 古正 茉莉亜

武家の文化・生き様を表わす言葉に、「質実剛健」があります。質実剛健とは、質素ながらも中身が充実し、心身ともに強くたくましい様を言います。武家や禅宗に代表される鎌倉時代の気風を表現するのに、これほどふさわしい言葉はありません。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災を機に、日本のすべてが変わったと言っても過言ではありません。日本はおろか世界中が、文明の発達に依存した生活を見直す必要にかられました。物にあふれた贅沢な暮らしが当たり前となった世の中で、改めて命の尊さ、物の大切さを思い知る出来事でした。そんな今こそ、質実剛健を旨とする鎌倉の武家精神を、世界中に発信すべき時ではないでしょうか。

今年、岩手県の平泉が世界文化遺産に登録されました。それは「仏の住む極楽浄土」を表現する建築群が、後世に残すべき価値あるものと世界中から認められたことを意味します。世界遺産に登録されるには、「人類が共有すべき顕著な普遍的価値」を持つものと認められなくてはなりません。それでは、鎌倉の普遍的価値とは何でしょうか。

アメリカのオバマ大統領は昨年サミットの合間に鎌倉の大仏を訪れましたが、この訪問は大統領としての願いで実現したと聞きます。鎌倉の何が、オバマ大統領をそこまで引きつけたのでしょうか。

鎌倉の大仏は、「露座の大仏」として知られています。大仏殿は明応の大地震で津波により流されてしまいました。しかしそれにも関わらず、大仏様は風雨に晒されながらも、数百年からの鎌倉武士の気風を私たちに教えてくれます。建長寺や円覚寺といった禅宗寺院、また鶴岡八幡宮や切通などの歴史遺産も、戦争や災害の痕跡を残しつつ、質素で堅実な文化を現代に伝えています。環境破壊が叫ばれる今こそ、現代社会への警鐘として、武家社会が伝承する人間本来の在るべき姿を世界へと発信すべきではないでしょうか。

東日本大震災により、自然をも支配できると考えていた人間の愚かさが明らかになりました。私たちはもう一度、原点に立ち返るべきです。鎌倉が世界遺産となることで、慎ましくも豊かな伝統に育まれた武家文化の素晴らしさを、世界中に伝えることができるのではないのでしょうか。

かつて鎌倉武士は、西国が中心だった時代に、東国で初めての幕府を自分たちの手で築き上げました。世界遺産登録に街が丸となることで市民の団結力も生まれ、新しい時代の街造りもできるはずです。

形としての歴史遺産だけでなく、目に見えないながらも脈々と伝えられてきた武家精神こそ、古都・鎌倉が世界に誇る、真に価値あるものだと思います。